

2025年3月期 決算説明会

株式会社リミックスポイント

©2025 Remixpoint, inc. All rights reserved.

本日は、株式会社リミックスポイント 2025年3月期 通期連結決算説明会にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。

株式会社リミックスポイント 代表取締役の高橋由彦です。

本日は、はじめに「前期の連結決算の概要」、次に「2026年3月期の業績予想」、そして、5月19日に公表しました「エクイティファイナンス」の順番でお話したいと考えています。

どうぞよろしくお願い致します。

2025年3月期 業績概要

早速ですが、2025年3月期の連結決算から説明させていただきます。

2025年3月期 連結累計期間実績

売上は前年同期比で増収したものの、エネルギー事業において2025年3月期より発生した容量抛出金及び金融投資事業における暗号資産評価損の計上により営業利益は減益となった

		(百万円)	
		2024年3月期 累計実績	2025年3月期 累計実績
売上高	エネルギー事業	18,886	20,663
	レジリエンス事業	1,219	1,370
	金融投資事業	—	▲2,049
	メディカル事業	278	1,144
	その他	102	—
	合計	20,487	21,129
営業 損益	エネルギー事業	2,296	1,394
	レジリエンス事業	131	290
	金融投資事業	—	▲2,098
	メディカル事業	▲7	43
	その他	24	▲3
	セグメント調整額	▲701	▲837
	合計	1,743	▲1,211
経常利益		1,758	▲541
親会社株主に帰属する当期純利益		1,070	▲593

2025年3月期 通期連結業績につきましては、売上高211億円、営業損失12億1,100万円、経常損失5億4,100万円、親会社株主に帰属する当期純損失5億9,300万円となりました。

売上高につきましては、金融投資事業における暗号資産評価損20億円が発生したものの、エネルギー事業及びレジリエンス事業において売上が伸長したこと、また当社の報告セグメントに新たに追加されたメディカル事業における売上もあって、前年同期比で増収となりました。

営業損益につきましては、エネルギー事業、レジリエンス事業において、堅調に利益を上げたものの、金融投資事業における暗号資産評価損約20億円を計上したことで、12億1,100万円の営業損失になりました。

経常利益は、2024年11月13日までの暗号資産評価益、6億7,500万円が営業外収益の区分で計上されていることもあって、経常損失は5億4,100万円となりました。11月13日を境に、暗号資産の評価損益が、営業外収益と売上高に分かれていることから、こと2025年3月期においては、営業利益よりも、経常利益の方がより実態に近いものと考えております。

2025年3月期 連結累計期間実績

売上は前年同期比で増収したものの、エネルギー事業において2025年3月期より発生した容量拋出金及び金融投資事業における暗号資産評価損の計上により営業利益は減益となった

(百万円)

		2024年3月期 累計実績	2025年3月期 累計実績
売上高	エネルギー事業	18,886	20,663
	レジリエンス事業	1,219	1,370
	金融投資事業	—	▲2,049
	メディカル事業	278	1,144
	その他	102	—
	合計	20,487	21,129
営業 損益	エネルギー事業	2,296	1,394
	レジリエンス事業	131	290
	金融投資事業	—	▲2,098
	メディカル事業	▲7	43
	その他	24	▲3
	セグメント調整額	▲701	▲837
	合計	1,743	▲1,211
経常利益	1,758	▲541	
親会社株主に帰属する当期純利益	1,070	▲593	

各セグメントの業績についてご説明いたします。

まず、エネルギー事業につきましては、売上高206億円、セグメント利益13億9,400万円となりました。

エネルギー事業は主に電力小売事業を営んでおります。

エネルギー事業を取り巻く事業環境としましては、JEPXにおける取引価格が一年を通して、安定したことから、比較的平穏な事業環境が継続しました。

このような状況下、エネルギー事業では、新規営業活動の強化や顧客ニーズに合った新プランリリースなどの取り組みにより、高压や低压法人の契約が増加し増収となりました。

一方、セグメント利益につきましては、2024年4月からはじまった容量拋出金約14億円を費用に計上したことで、前年同期比で減益となりました。しかしながら、2026年3月期は、容量拋出金総額が3分の1程度になるものと見込みのため、十分なセグメント利益の回復を想定しております。

2025年3月期 連結累計期間実績

売上は前年同期比で増収したものの、エネルギー事業において2025年3月期より発生した容量抛出金及び金融投資事業における暗号資産評価損の計上により営業利益は減益となった

		2024年3月期 累計実績	2025年3月期 累計実績
売上高	エネルギー事業	18,886	20,663
	レジリエンス事業	1,219	1,370
	金融投資事業	—	▲2,049
	メディカル事業	278	1,144
	その他	102	—
	合計	20,487	21,129
営業 損益	エネルギー事業	2,296	1,394
	レジリエンス事業	131	290
	金融投資事業	—	▲2,098
	メディカル事業	▲7	43
	その他	24	▲3
	セグメント調整額	▲701	▲837
	合計	1,743	▲1,211
経常利益	1,758	▲541	
親会社株主に帰属する当期純利益	1,070	▲593	

レジリエンス事業におきましては、売上高13億7,000万円、セグメント利益2億9,000万円と、ともに前年同期を上回る結果となりました。

主に、蓄電池事業において、蓄電池の販売代理店の開拓や販売活動を積極的に推進したことから、当社オリジナルブランドの家庭用蓄電池「remixbattery」や工場や商業施設等の法人向け小型産業用ハイブリッド蓄電池の販売台数が伸長し、増収増益となりました。

レジリエンス事業では、今後、家庭用蓄電池のみならず、小型産業用蓄電池の販路拡大を進め、FIP転化事業を推進することで、さらなる収益獲得に努めてまいります。

金融投資事業につきまして、2024年11月14日付けで新事業部を立ち上げたことで、同事業部に属する資産から生じる損益は、売上高の区分で計上することとなりました。そのため、11月13日以前に生じた暗号資産評価益6億7,500万円は営業外収益に計上され、以後に発生した評価損益は売上高に計上しております。

暗号資産価格は、トランプ氏が米国大統領に就任後しばらくは、堅調な動きを見せていましたが、関税問題もあって、2月中旬から3月にかけて下落しました。

そのため、3月末時点で、20億4,900万円の評価損、つまり売上高の減少を記録しました。

結果、金融投資事業の売上高は20億4,900万円のマイナス、そして、20億9,800万円のセグメント損失を計上することとなりました。

連結貸借対照表推移

(百万円)

		2024年3月31日現在	2025年3月31日現在
資産の部	現金及び預金	13,573	5,103
	売掛金及び契約資産	3,554	3,766
	商品	251	146
	自己保有暗号資産	68	8,674
	営業投資有価証券	—	415
	その他	264	550
	流動資産計	17,714	18,657
	固定資産計	1,999	1,886
	資産合計	19,714	20,543
負債の部	買掛金	565	1,233
	預り金	97	223
	未払法人税等	14	61
	その他	644	1,001
	流動負債計	1,322	2,519
	固定負債計	422	111
負債合計	1,744	2,631	
純資産の部		17,969	17,911
負債・純資産合計		19,714	20,543

2025年3月31日時点の当社の連結貸借対照表になります。

総資産205億円に対し、負債は26億円、純資産は179億円となり、自己資本比率は87%です。また、現預金は51億円保有しております。

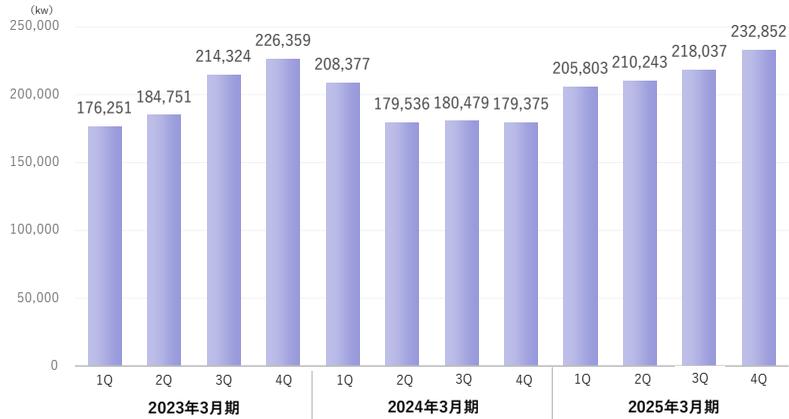
2025年3月期 主な事業別トピックス

続いて、各事業の主なトピックスについて説明いたします。



容量抛入金制度を見据えた新プランへの移行により、契約総容量は前中間期に減少。
 当期では順調に回復し、新プラン移行前を超える水準に回復

高圧需要家の契約総容量推移



まずエネルギー事業です。

ご覧のとおり、当社が注力している高圧、特別高圧の需要家の契約総容量は、順調に回復し、232,852キロワットと過去最高となっております。



低圧個人の需要家数は減少しているものの、電力使用量の多い法人需要家の獲得が大幅に増加。
低圧全体の使用電力量は前年同期比で増加となった

法人・個人別の低圧需要家獲得状況推移



こちらは、低圧の需要家の獲得状況を表す推移表になります。

当社は、低圧のなかでも、電力使用量が多い法人需要家の獲得に注力しております。

ご覧のとおり、電力供給先の件数も18,000施設に迫る勢いで、一年前のおおよそ2倍となっていることを確認して頂けると思います。



前年同期比21.9%の増収。高圧および低圧法人向け販売電力量の増加が主な要因



①高圧

高圧需要家数は、2023年7月に容量市場対応のため行った新プランへの全面移行後に一時的に減少したが、当期では新プランへの移行前水準を超える水準に回復。販売電力量および売上は前年同期比で増加。

②低圧

電気使用量の多い低圧法人需要家数が堅調に推移し、低圧全体の販売電力量および売上は前年同期比で増加。低圧個人の需要家数は減少傾向だが、獲得強化推進を継続。

電力の売上高は、電力価格の変動に大きな影響を受けることから、当社では、左のグラフではなくて、真ん中と右の販売電力量の増減に注目しております。

ご覧のとおり、真ん中の高圧販売電力量は、当第4四半期においては、前年同期比で20.4%増加しております。

また、低圧販売電力量も、当第4四半期は前年同期比で14.4%増加と、順調に伸ばしております。



子会社シールエンジニアリングが一般建築業許可を取得。
蓄電池の販売から設計施工、O&Mまで、設置工事も含めたワンストップサービスを提供

SE Seal Engineering

当社および当社パートナー企業に蓄電池に関する下記のサービスを提供

- 設計
- 施工
- 運営、保守

再エネアグリゲーション事業を目的に、蓄電池事業の更なる拡大へ

続いてレジリエンス事業です。

また、レジリエンス事業では、2024年7月1日付で連結子会社である株式会社ジャービスを株式会社シールエンジニアリングに商号を変更し、同社で、新たに再エネアグリゲーション事業を目的とした蓄電池事業を開始いたしました。

これにより、従来型の蓄電池販売事業だけでなく、FIP転化事業、系統用蓄電池事業にも弾みをつけることができました。

今後、シールエンジニアリングでは、蓄電池事業のさらなる収益拡大を目指し、蓄電池の設計・施工・運営・保守をワンストップで提供してまいります。



2025年3月31日時点で100億円の暗号資産を購入



2025年3月31日終値ベースで総額86億円（取得価額100億円）

※評価損14億円は、当第4四半期に損失として損益計算書に反映済です。
※各暗号資産の金額は、2025年3月31日時点で保有する暗号資産の簿価です。

次は金融投資事業になります。

金融投資事業では2025年3月31日までに、あわせて100億円の暗号資産の投資を実行しております。

3月末時点では残念ながら14億円の評価損を計上したことから、表にあるとおり、終値ベースで86億円となっております。しかしながら、5月14日時点では、時価の回復があって、すでに20億の暗号資産評価益、つまり売上高を計上しております。

2026年3月期 業績予想

RP · Remixpoint ©2024 Remixpoint, inc. All rights reserved. 13

次に、2026年3月期の業績予想についてご説明します。

2026年3月期 通期連結業績予想

2026年3月期は、各事業において2025年3月期実績を上回る見通し

(百万円)

		2025年3月期実績	2026年3月期 業績予想
売上高	エネルギー事業	20,663	22,905
	レジリエンス事業	1,370	2,524
	金融投資事業	▲2,049	6,376 ~ 9,519
	その他	1,144	203
	合計	21,129	32,010 ~ 35,153
営業 損益	エネルギー事業	1,394	1,851
	レジリエンス事業	290	460
	金融投資事業	▲2,098	6,295 ~ 9,438
	その他	40	1
	セグメント調整額	▲837	▲909
	合計	▲1,211	7,698 ~ 10,841
経常利益		▲541	7,698 ~ 10,841
親会社株主に帰属する当期純利益		▲593	6,620 ~ 8,800

※その他事業には、メディカル事業が含まれています。

5月15日に発表した決算短信に、2026年3月期の通期連結業績予想を記載しています。

ご覧のとおり、前期と比較して、売上高だけでなく、各段階での利益も大きく増加したものを公表しております。

業績予想をするにあたって、進行期2026年3月期は、2025年4月1日時点で保有しているビットコインを中心とした暗号資産の価格の見通しを立て、それを踏まえて、金融投資事業の売上高、営業損益を公表したからです。

結果、売上高が320億円～351億円、営業利益が76億円～108億円、経常利益が76億円～108億円となりました。

2026年3月期 通期連結業績予想（金融投資事業）

2025年4月1日時点で保有している暗号資産の価格見込みは下記の通り。
下記の水準に達することを前提に業績予想を作成

(単位：USドル)

種類	2026年3月期中		
	数量（期首時点）	低い予想価格	高い予想価格
BTC	616.00 BTC	150,000.00	180,000.00
XRP	1,191,204.80 XRP	3.30	4.30
ETH	901.45 ETH	3,250.00	4,300.00
DOGE	2,802,312.00 DOGE	0.30	0.43
SOL	13,920.07 SOL	250.00	300.00

予測した暗号資産価格を表しているのが、このページになります。

一番左にあるのは、保有暗号資産の種類、次に期首時点の保有数量になります。そして、2026年3月期中に到達するであろう暗号資産の価格をそれぞれドルベースで記載しております。

例えば、ビットコインの予想価格は、15万ドルから18万ドルと考えております。

2026年3月期 通期連結業績予想（金融投資事業）

2025年3月末時点で保有する暗号資産に係る評価益は、6,376百万円から9,519百万円となる見通し

(百万円)

種類	数量（期首時点）	2025年3月末	2026年3月期	
		帳簿価額	低い予想価格 (1BTC=150,000ドル)	高い予想価格 (1BTC=150,000ドル)
BTC	616.00 BTC	7,689	13,398	16,078
XRP	1,191,204.80 XRP	375	570	743
ETH	901.45 ETH	247	425	562
DOGE	2,802,312.00 DOGE	69	122	175
SOL	13,920.07 SOL	263	505	606
合計		8,643	15,019	18,163
暗号資産評価益			6,376	9,519

この表は、同じく4月1日時点で当社が保有している暗号資産の数量に、先ほど説明しました2026年3月期中に到達するであろうと考えている暗号資産価格を乗じ、円ベースでそれがいくらかになるのかをあらわしている表になります。

一つ例を挙げますと、期首時点で保有しているビットコインの数量が616BTCで、帳簿価額が76億8,900万円です。ビットコインの価格が15万ドルから18万ドルに到達した場合、保有ビットコインは133億9,800万円から160億7,800万円になります。

結果、暗号資産評価益が63億7,600万円から95億1,900万円になる見込みです。

2026年3月期 通期連結業績予想（ゼロメディカル社の株式譲渡について）

2025年4月25日開催の取締役会で、当社が保有するゼロメディカル社の全株式の譲渡を決議。
2026年3月期第1四半期において、約6億5000万円の特別利益を計上見込み



経営資源の最適配分及び事業ポートフォリオの再構築の推進にあたり、
経営資源を主要事業に集中させることで、さらなる企業価値の向上へ

※詳細につきましては、2025年4月25日開示「[連結子会社の異動を伴う株式譲渡及び特別利益の計上の見込みに関するお知らせ](#)」をご参照ください。

また、当社は、経営資源をより一層、金融投資事業を中心とした主要事業に注力するために、4月25日に、当社が保有しているゼロメディカル株式すべてをユカリア様に譲渡する決議をしております。

これにより、2026年3月期の第1四半期に6億5,000万円程度の特別利益が計上されることを見込んでおります。

5月19日公表 エクイティファイナンス

次はエクイティファイナンスになります。

本資金調達の詳細

第24回新株予約権の概要

取引内容	行使価額修正条項付新株予約権（第三者割当）
割当先	EVO FUND
潜在株式数合計	12,500,000株（潜在希薄化率：9.97%）
想定調達総額	約56億円
発行決議日	2025年5月19日
発行・払込日	2025年6月4日
当初行使価額	450円
行使価額の修正	3取引日毎に直前取引日終値の 100%に修正
行使請求期間	2025年6月5日から2026年6月5日

ディスカウントをゼロとした資金調達手法を採用

当社は5月19日に、新株予約権の発行決議をいたしました。

当社といたしましては、株式の希薄化はなるべく最小限にするとともに、企業価値の向上も図るという観点で熟考した結果、希薄化率10%で、約56億円のエクイティファイナンスを行うことにいたしました。

発行済株式数が10%増加いたしますが、既存株主様の利益の観点からも、最良であろうという結論にいたり、今回の増資の決議をさせていただきました。

本資金調達資金の用途

調達予定総額：約56億円



【ビットコインへの投資】

本資金調達で得た資金で購入するビットコインの大部分は中長期保有され、将来のビットコインの資産価値上昇を当社の企業価値の向上につなげてまいります。暗号資産周辺領域において、今後ブロックチェーンを活用したNFT（非代替性トークン）やDeFi（分散型金融）といった、新しいサービスや経済の仕組みの誕生により、暗号資産の存在感はより増すものと予想されています。

暗号資産全体の時価総額は、現在約400兆円まで成長しております。ビットコインはその暗号資産の代表格で、他のアルトコインに比べ時価総額が大きく、高い流動性を保っていることから、当社は、約4,402百万円を、市場状況を踏まえながら暗号資産（ビットコイン）への投資に充当する予定です。なお、本日現在において当社が保有している暗号資産は以下のとおりです。

	保有枚数	時価評価益 (百万円)
ビットコイン	648,828,152,666 BTC	1,485
イーサリアム	901,446,725,42 ETH	82
ソラナ	13,920,072,558,68 SOL	81
リップル	1,191,204,799,501 XRP	47
ドージコイン	2,802,311,996,57 DOGE	20

(注) 時価評価益は、2026年3月期期首簿価に、2025年5月13日に取得したビットコイン取得価額5億円を加算した価額を基準とし、2025年5月15日の終値（2025年5月15日24：00時点）を基に算出しております。

【Web3.0関連事業への投資】

ブロックチェーン自体の生成、さらには取引の認証・検証を行うバリデーター事業への参入及びすでにWeb3.0の分野に幅広く展開している企業への出資を通じた業務提携並びに暗号資産へ投資している企業への出資に、本資金調達による調達資金のうち約1,200百万円を充当します。

調達金額のうち、ビットコインの購入に約44億円を、Web 3 関連事業への投資に12億円を使用させていただきます。

弊社は、株式価値の向上と資産価値の中長期的な保全の観点から、本資金調達によって、保有しているビットコインを積み増すとともに、ビットコインやイーサリアムなどの暗号資産と密接に関係するWeb3.0分野に投資することで、あらたな事業機会を創出していきたいと考えております。

留意事項

- ① 本資料に含まれる予想数値及び将来の見通しに関する記述・言明は、当社グループが現在入手している情報による判断・評価・仮定に基づいております。その判断・評価・仮定に内在する不確定性・不確実性及び今後の事業運営や内外の状況変化等により、実際に生じる結果が予測内容等とは実質的に異なる可能性があります。当社グループは、将来予測に関するいかなる内容についても、その確実性を保証するものではありません。
- ② 本資料は、情報の提供を目的とするものであり、当社グループにより何らかの行動を勧誘するものではありません。
- ③ 目的を問わず、本資料を無断で引用又は複製することを禁じます。

以上で、リミックスポイント 2025年3月期通期連結決算の説明とさせていただきます。

ご視聴ありがとうございました。